

平成23年度

# 学校経営計画

(スクールマネジメントプラン)

( 計画段階 )

## 評価のつけ方

- \* 本編の中間評価は次の4段階で、すべての具体的方策について評価をつけてください。改善策があれば記入してください。  
A：十分達成できている B：ほぼ達成できている C：達成できているとはいえない D：ほとんど達成できていない
- \* 教科編の中間評価は次の4段階で、自分の教科の具体的方策について評価をつけてください。改善策があれば記入してください。  
A：十分達成できている B：ほぼ達成できている C：達成できているとはいえない D：ほとんど達成できていない

## 評価基準について

### \* 基本

- ①  $A+B \geq 80\%$  → A
- ②  $60\% \leq A+B < 80\%$  → B
- ③  $A+B < 60\%$  → C

### \* 修正

- ①であっても  $A < (B+C+D)/4$  → B
- ③であっても  $D > (A+B+C)/4$  → D

平成 23 年度 府立西城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

平成 23 年 4 月 4 日

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◎「部活動の盛んな進学校」としての学校づくりの推進</p> <p>◎「質の高い教育活動」の推進による、生徒の自己管理能力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程特例校として、3年間が経過したが、類型登録指導では、進路を見据えた選択への丁寧な指導をおこなった。今後とも学習指導面や進路指導面で各コースの特徴をさらに明確にしながら、希望進路の実現の裏付けとなる教育課程の編成等の工夫を行う必要がある。</li> <li>・ 1年時における「初期指導」は「N J 学びのノート」等を利用した学習ガイダンス等の充実により、高校生として学習態度を育成するという点において、成果を上げている。</li> <li>・ 家庭学習習慣の定着や自立的な学習態度の育成のためのはたらきかけを、年間を通して行った。しかし、まだまだ充分とは言えず、今後、授業内容や指導のあり方など、さらなる工夫が求められる。</li> <li>・ 生徒指導面では、年間を通して落ち着いた状況であり、校門での遅刻生徒も前年よりも大きく減少し、3年間皆勤者も大幅に増加した。</li> <li>・ 早期から自己の将来を見つめさせ、学ぶことの意義やおもしろさに気づかせる働きかけの重要性から、各教科においても、「進路と出会う」授業展開や自立的な学習態度を育てる指導の在り方など、さらに工夫することが必要である。</li> <li>・ 進路指導面では、実力テストを核に学習や進路への意識付けを面談等を中心に行ったが、今後さらに、「N J 学びのカルテ」等を活用し、生徒に自己の学習到達点を継続的に把握させ、自立的な学習態度を育てていく必要がある。</li> <li>・ 日々の清掃や月例大掃除の指導を通して、生徒の美化意識の向上や公共心を養うことができた。清掃点検やゴミ分別点検により、担任も含めて意識の高揚に努めることができた。</li> <li>・ 部活動の奨励という目標は、加入率が77.4%とここ数年で増加傾向にあり、達成できていると言えるが、一人ひとりの生徒が部活動と勉強との両立ができるように、一定の家庭学習時間の確保など、さらなる環境整備が必要である。</li> <li>・ 今年度広報活動体制の見直しを行い、組織的な形で情報発信ができたことは大きな成果である。今後、本校で学ぶ意欲を持った生徒を確保するため、より効果的な発信の仕方を工夫する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高いレベルでの「文武両道」を進める中で、学力、進路、部活動を保障する取り組みを行う。</li> <li>・ 授業規律を徹底するとともに、自ら意欲的に学習へ取り組みさせるための授業等への工夫を重ね、集団及び個々の生徒の課題に対応した教科指導を行う。</li> <li>・ 学習や学校行事、部活動等、学校生活のあらゆる場面で、自ら主体的に物事に取り組むことの楽しさや苦しさを体感させ、粘り強く自己の目標に向かって努力する姿勢を養うことで人間的成長を促す。</li> <li>・ 「当たり前のことが当たり前に見える」を基本とする生徒指導を通じて、規則正しい生活習慣と高い規範意識を育成する。</li> <li>・ あらゆる教育活動を通じて、人としての在り方、生き方を考えさせることで進路選択能力の涵養を図る。</li> <li>・ 生活実態や学力実態の把握に努め、的確な分析・検討を行うことで、時期をとらえた指導と対策を講じて希望進路の実現を図る。</li> <li>・ 校内外の環境美化を進めて、美しく爽やかな学習環境の維持、向上に努め、学ぶ姿勢を確立させる。</li> <li>・ 部活動を奨励するとともに、ワンランク上の勝利目標を定め、チャンピオンスポーツを目指す。</li> <li>・ 本校で学ぶ意欲を持った生徒の入学を促すため、「西城陽高校の良さ」を積極的に発信し、中学校等との連携を推進する。</li> </ul>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			方策	目標	領域	
組織・運営	教育の質の向上を図るための学校経営計画の計画的・機能的な運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教職員一人ひとりが、重点目標達成のため、自らの役割に応じた自己目標を立て、教職員が一丸となり連携・協同することで、教育の質の向上を目指す。</li> <li>◆保護者アンケート等の外部評価を実施し、その評価において、改善すべき点を受け止め、良い点をさらに伸ばし、今後の授業や教育活動に生かす。</li> </ul>				
	活力ある教育活動の推進	◆開校 30 周年記念事業等の準備を進めるとともに、教職員 1 人ひとりがそれぞれの教科・分掌の視点から、学習指導、進路指導、生徒指導、学校行事面において、教科会議や分掌会議等でアイデアを出すとともに工夫を実践し、活力ある教育活動の推進をする。				
教育課程	適切な類型選択指導	◆生徒の進路希望や学習状況を十分に理解したうえで、関係教員と連携をとりながら、生徒個々に応じた丁寧な指導を行う。				
	新学習指導要領による教育課程の編成	◆新学習指導要領についてさらに理解を深めるとともに、大学入試科目などの研究を重ね、新しい教育課程案を完成させる。				
学習指導	学習習慣の確立と主体的な学習態度の育成・教科指導力の向上	◆学ぶことの意義やおもしろさに気づかせる指導方法を研究し、「進路に出会う」授業の実践に努める。				
		◆授業展開の工夫などを通して授業と連動した、家庭学習の重要性を認識させ、宿題や課題に取り組むだけの受動的な学習態度から、主体的に取り組む学習態度への転換を図る。				
		◆授業評価アンケートなどを積極的に活用し、生徒が自ら学習に取り組んでいる実感と成就感を伴う授業の実践を目指して、日々研鑽を重ねる。				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			方策	目標	領域	
生徒指導	基本的生活習慣の確立	◆あいさつの励行や正しい制服の着こなし、遅刻の防止等、基本的な生活習慣確立のため、校内のあらゆる場面で意識的に声かけ等を行う。				
		◆生徒が主体的に校則やマナーを守り、責任ある行動がとれるように働きかける。				
		◆「気になる生徒」についての適切な情報を教職員間で共有する。				
	道徳心の育成と規範意識や人権意識の確立	◆良好な人間関係を深めさせるため、学校行事や部活動、ボランティア活動などに積極的に参加させる働きかけを行う。				
		◆日々の授業、部活動、人権学習や学校行事等を通して、周囲への心遣いができ、基本的人権を尊重する態度を育てる。				
		◆明確な指導の基準を共有し、組織的に一貫性を持った指導が行えるよう、報告、連絡、相談、確認を速やかに行って対応する。				
組織としての迅速な対応による問題行動の未然防止	◆教職員間で情報を共有し、いじめや生活の乱れなど、生徒の変化に早く気づき心の内面に届く指導に努める。					
進路指導	生徒一人ひとりの進路目標の設定とその実現に向けての指導の充実	◆進路指導部と学年部、各教科が連携し、時機に応じた進路に関する情報発信を行い、個別指導を充実させて生徒一人ひとりの進路目標の設定を行う。				
		◆一人ひとりの教員が自分の担当するクラスや講座の実力テスト等の結果分析を行い、事前、事後指導や面談の資料提供をするとともに、各教科の授業や補講に反映させる。				
		◆個人面談等を通じて、生徒の進路希望の把握に努め、個に応じた適切な指導を行うため、進路希望調査、生活学習実態調査、実力テスト・模擬試験の結果等、時機に応じた適切な情報を積極的に活用する。				
	生徒の進路選択に対するモチベーションアップを図るガイダンス機能の充実	◆進路指導部と学年部、各教科が連携し、進路LHRや説明会だけでなく、授業においても生徒の進路選択に対するモチベーションアップに努める。				
		◆「NJ学びのカルテ」を活用し、学習課題を分析することで自己の学習成果や到達点を継続的に把握させて、自律的な学習態度を育てる。				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題	
			方策	目標	領域		
健康・安全教育	健康診断における全員受検の徹底と自己健康管理の啓蒙	◆保健部が、健康診断の未受検生徒への通知・指導をきめ細かく実施し、一定期間内に健康診断を完了させるよう協力する。					
	心の問題を抱える生徒等に対する教職員の対応力の向上	◆日常の生徒観察を重視し、保健部やスクールカウンセラー等と連携し、相談しやすい環境作りに取り組む。					
		◆「気になる生徒」の情報を教科担当者と学年部で共有し、関係分掌や教育相談会議との連携を図り、生徒の心の変化に対して早期に援助する。					
	心身の発育・発達や性に関する内容について理解し、危険を回避する能力の育成	◆生徒が性感染症の実態把握と正しい知識を持ち、異性の立場に立って「性」を考えられるよう、意識付けを行う。					
	交通安全指導の推進	◆P T Aの協力のもと、校門前と通学路における危険個所の指導を重点的に全教職員で行い、生徒の安全に努める。					
◆四ない運動の推進は、生徒指導部を中心に各種集会や長期休業前等に文書による啓発を行う。さらに、ホームルーム活動等を通して、「命の大切さ」の啓発や交通安全指導を推進する。							
学習環境	校内美化意識の確立と校内美化の維持	◆日々の清掃活動や月1回の大掃除を通じ、美化意識・公共心を養い、良好な学習環境を自分たちで作りに出させるよう清掃活動の監督をする。					
		◆保健委員会が行う清掃点検やゴミ分別点検調査等を通して、清掃状況やゴミの分別状況を確認し、校内美化やゴミ分別の徹底に努める。					
図書館運営	読書活動の推進	◆図書情報部の発行する図書館便り、読書啓発冊子、新着図書の紹介などに関心を持ち、ホームルーム活動や授業等を通して、読書活動を推進する。					
		◆日頃から推奨する図書を意識し、閲覧用図書の充実に協力する。					
	図書館利用の充実	◆ホームルーム活動や授業等をとおして、図書館の利用マナー等の意識付けを行う。					
		◆図書の貸し出しや蔵書点検を円滑に行うため、蔵書のデータベース化を推進し、図書館利用の促進をするので、積極的に図書館利用を行う。					

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			方策	目標	領域	
研修	教職員の資質向上に向けた研修の充実と積極的参加の奨励	◆教職員の全体研修会や校内の分掌・教科研修会、外部研修会や校内の研究公開授業へ積極的に参加し、資質の向上に努める。				
安全管理	学校の危機管理についての教職員間の共通理解	◆教職員一人ひとりが、学校危機管理マニュアルに精通し、緊急時対応や防災・防犯等に備えて、自らの役割に応じて対応できるように、日頃から心掛ける。 ◆避難訓練、普通救急講習会等の実施により、非常時の適切な行動に備える。 ◆USBメモリー等の扱いに留意し、学校や個人の情報の適切な管理に最大限の意識を払う。				
	施設・設備の安全管理の徹底	◆校内ネットワーク及び情報機器の効率的な維持・管理に協力する。 ◆日頃から安全・安心を心掛け、生徒の安全確保に努めるため、危険と思われる個所の情報を管理職、事務部に速やかに提供する。				
魅力ある学校づくり	部活動の振興	◆「文武両道」を勧め、部活動加入率を高めるとともに、目的意識を持って学校生活が過ごせるようにその働きかけに努める。 ◆生徒個々の個性を伸ばし自己管理能力を育成する。 ◆トップアスリートの育成については、部顧問および第Ⅲ類体育系主任による中学校との連携を密にし、意欲、学力、競技力の面で優れた生徒の獲得に努める。				
	学校行事の活性化	◆生徒自ら高校生活を創造させるため、文化的行事・体育的行事・研修旅行等の充実および変更に向けて、建設的なアイデアや意見を出すよう努める。				
家庭・地域社会との連携	開かれた学校づくりの推進	◆全教職員協力体制で、来校者や電話対応の接遇に心掛け、苦情等にも丁寧に説明し理解を求める。 ◆学校生活評価アンケートを通して、生徒の実態把握に努め、学校改善に生かすよりよいアイデアの提供を行う。				
	広報活動の推進	◆分掌部長による中学校訪問充実させるため、広報についての統一的なマニュアルの作成を行う。HPや広報誌において情報を発信する。				
	学校とPTAとの連携	◆積極的にPTA活動に参加・協力し、PTAの各活動に対する保護者の参加を促す。				

教科編

国語科

評価領域	重点目標	具体的方策	年度末評価			成果と課題
			方策	目標	領域	
学習指導	家庭学習習慣の定着と質の高い学習の確立にむけた丁寧な指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ノート作成のための具体的な指導を行い点検をする</li> <li>◆教材のねらいを明示して予習復習の課題を出す</li> <li>◆辞書の使い方を指導し、実際に辞書をひいて行う課題を出す</li> <li>◆自立的・主体的学習に向けた指導・助言を行う</li> </ul>				
	基礎学力の定着と進路実現に向けての学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日常的に小テストを実施し、語彙等の知識を定着させる</li> <li>◆補充授業を実施し基礎学力の補充を行い平常補講、休業中の充実補講および学習合宿に計画的に取り組む</li> <li>◆授業と家庭学習・補習・模試とにつながりを持たせるための具体的な取り組みを行う</li> <li>◆進路実現へのモチベーションを高めるために模擬試験・過去問を利用する</li> </ul>				
読書・表現指導	読書習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆表現力を高める授業を工夫して行う</li> <li>◆読書の幅を広げるために教材に関連する図書を積極的に紹介する</li> <li>◆読書感想文を課し、事前事後の指導をする</li> </ul>				
	資料・文献を正しく活用する力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆資料引用の仕方などについて具体的に指導する</li> </ul>				
教科指導	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆研究・公開授業・授業評価を全員が実施し、指導方法を研究する</li> <li>◆模擬試験・入試問題につながる授業を研究する</li> <li>◆生徒が意欲関心を持つ授業を行うための工夫をする</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学力実態を把握し、時機をとらえた指導を行うために指導方法を研究する</li> </ul>				

地 歴 公 民 科

評価領域	重点目標	具体的方策	年度末評価			成果と課題
			方策	目標	領域	
学習指導	基礎・基本の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆小テストを実施したり定期的に課題を出すなどして、家庭学習の習慣の確立を図る。</li> <li>◆基本的な地理的事項、歴史的事項の理解・定着を図る。</li> </ul>				
	自ら学び自ら考える力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆統計などの資料や視聴覚教材などを有効に活用し、興味・関心を持たせる。</li> <li>◆知識を教えるだけでなく、「なぜ?」「どのように?」等の質問を投げかける中で考えるきっかけを作る。</li> <li>◆作業や課題学習を充実させる。</li> </ul>				
研究・研修	教科指導力	◆入試問題などを研究・分析する中で、教材についての知識を深め、指導の幅を広げる。				
		◆各単元の目標・指導計画・評価方法などを内容とするシラバスを作成・検討する。				
		◆授業研究・公開授業を全員が実施する一方で、実力テストの分析を全員で共有する。				
		◆教員の研修会への積極的な参加を図る一方、裁判の傍聴など、積極的な研修を行う。				

数 学 科

評価領域	重点目標	具体的方策	年度末評価			成果と課題
			方策	目標	領域	
学習指導	日々の計算演習の徹底による基礎基本の充実および生徒個々に応じた学力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生徒の個々の学力を正確にとらえ、わかりやすい授業を実施する。</li> <li>◆日常的な確認テストや宿題を実施し、基本的学力の向上を図る。</li> <li>◆補講・学習合宿に取り組み、進路希望を実現しうる学力の伸長を図る。</li> </ul>				
	家庭学習習慣を身に付けさせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆毎日課題学習をできる課題を提供し、その点検に重点を置いた指導を行う。</li> <li>◆できるだけ休日明けに課題テストを実施し、休日の学習の定着を図る。</li> </ul>				
教科指導	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆研究公開授業に取り組み、事後研究での意見交流を図り、教員の指導力を高める。</li> <li>◆生徒の実態に応じた評価規準によって評価を行う。</li> </ul>				

理 科

評価領域	重点目標	具体的方策	年度末評価			成果と課題
			方策	目標	領域	
学習指導	わかりやすく魅力ある授業展開と学力の向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教材研究に取り組み、教科指導力を高める。</li> <li>◆わかりやすく魅力のある授業展開を図る。</li> <li>◆実験内容を充実させると同時に、安全第一を念頭に置き、適切な実験指導を行う。</li> <li>◆適宜小テストの実施や課題を課し、授業内容の発展と家庭学習の充実を図る。</li> <li>◆実力テストを分析し、この結果を教科指導に役立てていく。</li> <li>◆成績不振者に対するきめ細かい指導を行う。</li> </ul>				
	希望進路の実現を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆進路希望の実現に向けて、大学入試対策（補講）を積極的に行う。</li> </ul>				
教科指導	理工学に対する興味・関心の高揚を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆2年生理系講座に対する理科講演会を実施する。</li> <li>◆2年理系講座に対して、高大連携を積極的に取り組み、体験授業に参加させる。</li> <li>◆1年理系講座に対して、理科講演会を実施する。</li> </ul>				
研究・研修	教科指導力を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆研究および公開授業を実施し、教科指導力の向上に努める。</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆校内研修を充実させるとともに、研究会や研修会に積極的に参加する。</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生徒による授業評価を実施し、その内容を授業に活かしていく。</li> </ul>				

保 健 体 育 科

評価領域	重点目標	具体的方策	年度末評価			成果と課題
			方策	目標	領域	
学習指導	〈体育〉 筋力・持久力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆N Jロードレース(男 18km,女 15km)を目標に持久走の授業を展開し、持久力の向上を図る。</li> <li>◆サーキットトレーニングや補強運動を取り入れ、筋力の向上を目指す。</li> <li>◆体ほぐしや体づくり運動を計画的に実施する。</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆計画的に授業を展開し、運動の意義を理解するとともに、体力の高め方を理解させる。</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆計画的に授業を展開し知識・理解の向上を図る。</li> <li>◆課題学習を通して現代の健康課題を把握し、具体的な解決策を理解できるようにする。</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教科内で研修を進め新教育課程に対応したカリキュラムを作り上げていく。</li> </ul>					
安全管理	事故防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆事故防止の観点に立って授業を進められるよう計画を立てる。</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各授業時に危険箇所はないか点検するとともに、定期的点検をおこなう。</li> </ul>				

芸術科

評価領域	重点目標	具体的方策	年度末評価			成果と課題
			方策	目標	領域	
学習指導	積極的に取り組み、表現力を伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆（音楽科）のびのびと歌い演奏をする。</li> <li>◆（音楽科）コードネームの理解を図り演奏に活用する。</li> <li>◆（美術科）工夫しながら積極的に表現する。</li> <li>◆（美術科）発想力、創造力を伸ばす。</li> <li>◆（工芸科）積極的に制作し、作品を完成させる。</li> <li>◆（工芸科）講義を工芸ノートにまとめ理解を深める。</li> </ul>				

英語科

評価領域	重点目標	具体的方策	年度末評価			成果と課題
			方策	目標	領域	
学習指導	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ノート作成のための具体的な指導を行うなど、初期指導の充実を図る。</li> <li>◆基本的な学習内容の定着を図り、生徒が達成感を味わえるようにする。</li> <li>◆授業時間を確保するため、ベル開始を徹底する。</li> </ul>				
	家庭学習習慣の定着と進路保障に向けた学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆週2回以上の小テスト実施や定期的な課題提出などを行う。</li> <li>◆具体的な予復習の仕方について提示し、授業との関連を明確にする。</li> <li>◆平常及び長期休業中の補習を授業に関連させる形で計画的に行う。</li> </ul>				
教科指導	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆研究・公開授業を全員が実施し、指導方法を研究する。</li> <li>◆教員の研修会への積極的な参加を図り、効果的な指導方法を教科全体で模索する。</li> <li>◆評価基準については常に意識をし、検討を重ね、改善を図る。</li> <li>◆生徒による授業評価を行い、指導方法の改善に努める。</li> </ul>				

家庭科

評価領域	重点目標	具体的方策	年度末評価			成果と課題
			方策	目標	領域	
学習指導	自らの家庭生活をよりよくするために必要な知識と実践力の育成	◆食生活を中心とする生徒の生活状況の把握をし、「食育」に努める。				
		◆家庭生活にかかわる多岐にわたる題材をタイムリーにとりあげる。				
		◆実験・実習を実施する。				
		◆作品・レポートを全員に提出させ内容の充実を図る。				
教科指導	教科指導力の向上	◆最新情報や多様な知識を得るための研修をおこなう。				

情報科

評価領域	重点目標	具体的方策	年度末評価			成果と課題
			方策	目標	領域	
学習指導	情報活用の実践力の養成	◆ワープロ、表計算、プレゼンテーション、メールおよびブラウザなど、情報処理・発信にかかわる基本的なアプリケーションソフトが扱えるように指導する。				
		◆情報機器を利用して自己表現や情報発信ができるように指導する。				
		◆著作権や肖像権など、保護されるべきさまざまな権利について理解を深め、尊重する姿勢を養成する。				
	情報社会に参画する態度の養成	◆個人情報保護について理解を深める。				
	◆インターネットを利用する上で注意すべきマナーやエチケット、危険性などの知識を深める。					
	◆情報化の進展が生活に及ぼす影響を考えさせる取組みを行う。					
教科指導	教科指導力の向上	◆教材研究や指導法について情報交換や意見交流を行う。				
		◆インターネットなどを利用し、他校の実践例を研究する。				

次年度への改善の方向性	
-------------	--